



## 学校職員評価制度を乗り越え、職場の共同を！ 全教職員配付資料をもとに、まずは知らせることから

「学校職員人事評価制度」が4月1日から施行されます。組合員に限らず、この問題について不安を感じている先生は多いのではないかと思います。

11月28日の連続教育講座で、間宮先生は、「学校が経営体となり、教育が商品化され、教育の仕事がサービス労働化」「『専門/合議』組織から『管理/経営』組織へと移行」など、教職員が健康に働きづらい状況に置かれていることを指摘しました。今回の新制度は、「成果主義」によって競争・分断を煽り、「『管理/経営』組織への移行」をさらに強化させようとするものです。

そもそも、教育は、教職員集団として共同して子どもの成長を図るものです。個人の「能力」「業績」として評価することなど出来ません。この制度によって「共同」の土台が崩されることがあってはなりません。

先日の定期大会では、当面闘争として、教職員にこの問題を知らせる活動を重視することが承認されました。そこで、各分会でも、下記の取り組みで職場の共同を広げることを提起します。

- ①全教職員向けの配布資料や学習討議資料を活用し、職場で、この制度の問題点や非教育的な観点を話題にして、ともに考え合ひましょう。
- ②2006年3月の道教委との確認事項(別記)を校長との懇談等で改めて確認し、その趣旨を生かした民主的な職場づくりを進めましょう。

①の配付資料(A4版4ページ)については、全教職員分印刷し、発送しました。また、この資料と道教組作成の学習討議資料(A4版22ページ)のPDFのデータを、事務所にメールアドレスを登録している先生宛に送信しました。各職場での対話を進める資料として活用してください。

### 2006年3月 道教委との確認事項

- ・学校教育は個々の児童生徒の心身の成長発達が図られるよう、校長を中心に教職員が協力し、組織的、継続的に行われることが大切である。
- ・学校の教育目標は、校長の学校経営の理念のもとに教職員の意見が生かされることが大切であると考えており、学校や地域の実態を踏まえ、設定されるものと考えている。
- ・学校教育において校長と教職員との信頼関係は重要であり、この信頼関係を基盤として、教育活動を始めとする学校運営は、教育目標の達成に向け、校長を中心として教職員の協力のもとに、組織的に行われることが大切であると考えている。
- ・学校教育において校長と教職員との信頼関係は重要であり、この信頼関係を基盤として、教職員一人一人がその役割を果たすとともに連携・協働して教育活動に当たることが必要と考える。

# 戦争法廃止を求める「2000万署名」 一人10筆を目標に、職場で、地域で、取り組もう!

戦争法廃止に向けた2000万署名に、全教でも取り組んでいます。この署名は11月末から全国各地の様々な団体で取り組まれてきました。厚岸行動実行委員会でも、月2回の行動のあと戸別訪問をして400筆を越える署名を集めています。



全教が取り扱い団体となっているこの署名は、組合員一人あたり10筆を目標に取り組みます。子どもたちの平和な未来のために、立憲主義を取り戻すために、職場で、地域で、署名を呼びかけて、平和への思いを広げましょう。

また、他団体扱いの署名も含めて、2000万署名の取り組みの様子を事務所までお知らせください。

## 退職者激励会～4名の組合員を送り出します

今年度、4名の組合員が退職されます。各支部の組織部を中心に準備を進めましょう。各分会では、出欠確認を早めをお願いします。また、当日は昼から準備が始まります。可能な方はご協力をお願いします。

### 今年度退職される先生方

- 竹原 浩 先生 (遠矢小)
- 中村 真澄 先生 (光陽小)
- 加藤 厚子 先生 (弟子屈小)
- 岡本 裕子 さん (本部書記)

- 日時：3月25日(金)18時～
- 会場：星が浦教育会館
- 参加費：3000円

### ▼「さくらのほなびら」(まど・みちお)～おわること、はじまることの意味

ひとつのかげがえのことが  
ひとつのかげがえのことが  
あたりのまえずぎる  
うちゅうにちきゅうにとつて  
いやはちきゅうにとつて  
さくらのほなびら  
ひとつのかげがえのことが  
そしてはじまったのだ  
いまおわたったのだ  
じゅんたどりのたどつた  
さくらのほなびら  
ひとつのかげがえのことが  
えだをはなれて  
まど・みちお

卒業式の時期ですね。各学校では、子どもたちが学んできた歩みを意味付け、この先の未来に希望を持って、胸を張って卒業していく、様々なドラマがあったのではないかと思います。この詩では、さくらの散る様子が「いまおわたったのだ」と同時に「そしてはじまったのだ」と語っています。しかもそのことが「さくらにとって」だけでなく「ちきゅう」や「うちゅう」にとってもかけがえのない意味があるというのです。

子どもたちの卒業も、同じだと思います。小学校生活のおわりは新たな中学校生活の始まりでもあり、小学校では卒業していった子たちの足跡を受け継いだ新たな小学校生活が始まります。その年齢が来れば卒業することは当たり前のことですが、民主社会の形成者として立派に育っていくことは、「ちきゅう」や「うちゅう」にとってもかけがえのない意味があります。

組合でも、退職激励会で4名の退職者を送り出します。執行部の構成も新しくなりました。先輩組合員の心を受け継ぎ、また新たな全釧路教組がはじまります。一人分会も多く小さな組織になりましたが、新たな一年間、私たち全釧路教組も「ちきゅう」や「うちゅう」にとつてかけがえのない存在感を発揮できるよう、組合活動をつくっていきましょう!